

令和 4 年 4 月 18 日現在

機関番号：21403

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2021

課題番号：18K11959

研究課題名（和文）公共性に根ざす都市道路付帯物（アノニマス構成要素）の色彩基準

研究課題名（英文）Color standards for urban road accessories (anonymous components) rooted in publicity

研究代表者

尾登 誠一 (Onobori, Seiichi)

秋田公立美術大学・大学院・教授

研究者番号：60152550

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：研究の目的とするところはおおむね達成できた。16都市に及ぶ調査結果は混乱の一語につき、現場での応用展開を想像しつつ、地域特性への対応に心掛けた。本来的研究の着地は検証作業を必要とするが、コロナ禍の状況下でこれが叶わず、調査事例の量的調査と子細な分析により、現場での実質的展開に対応できる准景観色26色の選定と展開システムの提案により、都市道路景観の質的向上に寄与できる結果が得られたと自負している。

研究成果の学術的意義や社会的意義

公共性に根ざすアノニマス要素である、道路付帯物の色彩に着目する研究視点は、都市道路景観の混乱状況を改善するという点で不可欠である。調査と分析作業による結果は、多様な地域性や風土性、および自然環境を背景（地色）とした道路付帯物色（図色）が、行政が推奨するガイドライン4色ではカバーできない現実であり、また、現場展開を無視したものとして映る。研究は、准景色の設定と社会的展開を試みるという点でわかりやすく、学術的で具体的なテーマとして位置づけられる。都市景観に配慮した准景色の提案は、国策としてある「美しい国づくり大綱」にまさに沿うものである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of the research was almost achieved. The survey results covering 16 cities were a word of confusion, and I tried to deal with regional characteristics while imagining the application development in the field. The landing of the original research requires verification work, but this does not come true under the circumstances of the corona disaster, and by quantitative investigation and detailed analysis of the investigation cases, it is possible to respond to the actual development in the field. We are proud that the color selection and proposal of the development system have contributed to the improvement of the quality of the urban road landscape.

研究分野：デザイン

キーワード：都市景観美 道路付帯物アノニマス構成要素 現場踏査・測色調査 准景観色 図色と地色 現場での展開性 カラーフレーム カラーセレクター

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開発当初の背景

“色彩は情報”である。この端緒はめまぐるしい経済発展の象徴である都市において色彩を濫用し、情報過多の“騒色”という負の状況を派生させた。また日本は自然環境に恵まれるが故に、景観に対して寛容であり色彩に対する意識は、文化的価値として内に閉じる反面、常住景としてある景観色は“公共性”に定位しないまま秩序感を形成し得ない状況を招く。特に都市道路景観における道路附帯物の色彩は、数量的に多いため無秩序な景観濫造の一因となっている。1997年に国土交通省が示した景観に配慮した道路附帯物等のガイドライン4色は、色数も少なく、道路景観の風土性や複雑な構成要素に必ずしも対応するものとはいえず、結果として景観美形成には至らず騒色状況という混乱を招くのが、2004年の景観法制定後の現況である。それは、景観とは何かという社会的認識の低さや曖昧さのみならず、現場無視の対応が大きく起因している。景観法制定を受けて景観行政団体は、景観整備に向けた条例や基準を設けるが、今ひとつ有効性において改善の局面を示せないでいる。この背景を受けての研究は、公共性に根ざす都市道路附帯物(アノニマス構成要素)の色彩基準の策定に向けて展開された。

## 2. 研究の目的

本研究は、このような現況を背景に、公共性に根ざす都市道路附帯物をアノニマス景観要素として捉え、その色彩を背景となる地域の景観主調色との関連性で分析、いわゆる慣用色と異なる景観色の観点から基準となる色彩を「准景観色」として設定し、これをもって美しい都市道路景観の創出をめざすことを目的としている。景観法制定以降15年余を経過し、人口減少時代をむかえる状況を見据え国策としてうたわれる国土開発は、「美しい国づくり」への転換を標榜する。具体的な問題解決の色彩基準として准景観色を設定・提起する意義は大きい。研究は、多様な地域や風土性に柔軟に対応する実現性のあるシステム化も目的としている。

## 3. 研究の方法

-1 現場踏査…調査は色彩が情報として濫用される都市の道路景観に焦点を絞り、自然光ケルビン温度による色彩の見え方の違いや風土性の観点から、函館-八戸-盛岡-仙台(東北ゾーン)、長野-富山-金沢-松江(中部・北陸ゾーン)、川越-横浜-静岡(関東圏ゾーン)、京都-神戸-広島(関西圏ゾーン)、門司-小倉-博多(九州ゾーン)の全国16都市と、これを包含する5つのゾーニングを枠組みしている。主作業は、マンセル測色計による道路附帯物色(図色)の色彩データ測定、および視感測色による景観主調色(地色)採集を現場踏査として行なった。

-2 分析…グリッド分析や傾向分析により、道路附帯物色のゾーン別出現マトリクス、および全体的色彩傾向、さらに准景観色選定に向けた9つの視点、道路景観特性、景観性に配慮した図色と地色の相関性などから、准景観色の色域をポジショニングしている。

-3 色彩設計・色票化…現場展開と実現性への視点から、塗料用標準色(日本塗料工業会スタンダード654色)から准景観色26色を選定、マンセル値置換を行うとともに、分析結果を踏襲したカラーフレーム化を行った。

-4 システム化…都市道路附帯物カラーフレームとして、准景観色カラスキーム、および准景観色カラーセクターなど、現場への展開性に配慮した研究方法を踏襲している。

#### 4. 研究成果（准景観色カラスキーム）

准景観色は、①地域性/公共性/全体性/生活性/多様性/参加性の6景観形成要因を基盤に、②道路景観特性、③道路構成要素の主従関係、④影響度-面積効果、⑤色彩機能、⑥安全性、⑦エージング・メンテナンス、⑧計画性・見られ頻度と見られ強度、⑨展開性・実現性・色彩誘導など、9つの視点に配慮するものとなった。道路附帯物色(図色)は、背景となる景観主調色(地色)および安全色彩との関係性に配慮して選定されている。



色属性	色相	明度	彩度	トーン
地色・背景色	YR/GY/G/BG/B	8~3	6~2	light grayish/grayish/dull/dark grayish
図色・准景観色	YR/GY/G/BG/B	8~2	2~0.5	light grayish/grayish/dark grayish
安全色	R/YR/Y/G/PB/RP	8~4	15~10	vivid

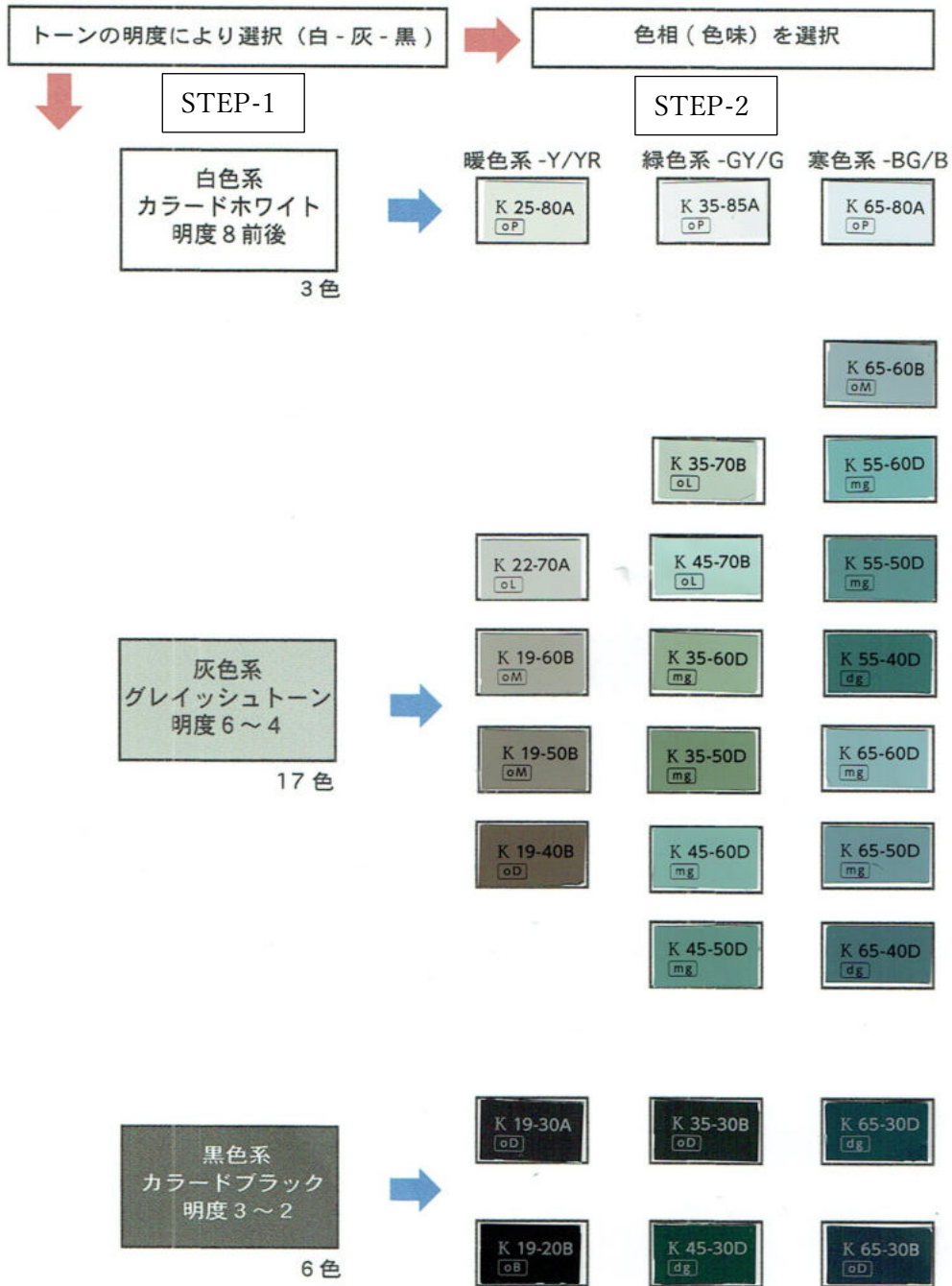
カラーセレクトー准景観色 26色は3つのステップ踏襲で景観美創出を可能とさせる。

STEP 1 …トーンの明度の段階性に着目し、白色系-灰色系-黒色系の方向性を想定する

カラードホワイト/グレイッシュトーン/カラードブラックの低彩度色

STEP 2 …都市道路環境、地域性などのイメージに相応しい色相を選択する

STEP 3 …施色する対象の形体(面積効果)へのマッチングを確認し決定する



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	飯倉 宏治  (Iigura Kouji)  (30611933)	秋田公立美術大学・大学院・教授    (21403)	
研究分担者	岸 健太  (Kishi Kenta)  (10313313)	秋田公立美術大学・大学院・教授    (21403)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関